

1. 開発の意義・必要性

(1) 資源有効利用性

▶ ウラン資源の有限性には種々の意見があり、海水ウランなどの非在来型資源を含めればウラン資源量が十分にあるためFBRは不要である。

【見解】

- 非在来型ウラン資源は、供給量と供給価格に関して不確実性が大きい。
- ウラン資源については、安定供給の確実性と経済性に優れた在来型ウラン資源を重視すべきである。
- 世界的には、中国やインドでの急激な原子力発電の増加が、ウラン価格の高騰や在来型ウラン資源入手の不安定性を助長する可能性がある。
- このため、海外資源に依存している日本ではウランの安定供給確保がより一層困難になる懸念があり、エネルギーセキュリティ向上の観点からFBR開発を着実に進めることが重要である。

1. 開発の意義・必要性

(2) 燃料の倍増時間

- 倍増時間が数十年では長く、ウラン資源の節約に役立たない。1 基増やすのに何十年もかかるのは現実的ではない。

【見解】

- 高速炉の導入において、倍増時間が数十年であることは、問題とはならない。適切に高速炉を導入することが可能である。